

【ゼミの概要】

それぞれ卒業後の進路も見据えながらの多忙な状況の中、各自、ゼミならびに大学での学びの総まとめとなる卒業レポートによく取り組んでくれ、担当教員も有意義な学びの機会を与えられた。

齊藤君は、織田信長の生涯について概観し、早くから世界に目を向けていた人物であったことを確認し、その能力と運とが相俟って天下統一の一步手前まで達したと考察している。また、ルイス・フロイス『日本史』を丹念に読み、もし信長が生きながらえていたならば、天下統一のみならず、大陸進出や開国を実現していたであろうと、フロイスに従いつつ推測している。

高橋君は、黒田官兵衛について、主君であった豊臣秀吉の「中国大返し」などの事績についての検証も絡めつつ、高松城水攻めや幽閉事件をはじめとするその生涯と出来事についてまとめた。そして、官兵衛のキリスト者としてのありかたについて考察し、たとえ一時的にはあれ、官兵衛には確かにキリシタンとしての時期があったことについて論証を試みている。

新井君は、「なぜ日本にキリスト教は広まらなかったのか」という若干挑発的なテーマのもと、主として阿満利磨と古屋安雄の考察に基づきつつ、日本のキリスト教の歴史をふまえ、長きにわたったキリスト教禁教政策の影響が大きいこと、仏教や儒教や神道のそれなりの「厚み」がキリスト教の広がりを許さなかったこと、日本においてキリスト教は「思想」にすぎないものであったこと、などをその要因として挙げている。担当者としては、執筆者が過去完了的に設定したテーマを何とかして少しでも克服したい、とひそかに思う。

いずれにせよ、以上の三名は、大学での学びのよいまとめとなるレポートを仕上げることができたと言ってよいだろう。この学びと思索の成果を今後の歩みにおいてもぜひ何らかのかたちで生かしてほしい。

【テーマ】

- | | | |
|---------|-------|------------------------|
| 115J031 | 齊藤 隆夫 | 「織田信長の人生とその後」 |
| 115J039 | 高橋凜太郎 | 「黒田官兵衛の元服後とキリスト信仰」 |
| 115J004 | 新井佑太郎 | 「なぜ日本にキリスト教は広まらなかったのか」 |